



写真1. タイワンモンシロチョウ♀ (対馬市豊玉町産)



写真2. タイワンモンシロチョウの食餌植物ハナナズナ

筆者は、2004～2018年の記録を整理し、激減の原因を推測するとともに本種の置かれている現状を報告したが（境、2019），直近の6年間は記録がなく危機的状況が続いていた。昨年（2019年），豊玉町において本種を確認することができたので報告する。

1♀（写真1），長崎県対馬市豊玉町佐保，16. VI. 2019，筆者確認

地表付近を弱々しく飛ぶシロチョウを発見，モンシロチョウにしては違和感があったので念のため捕獲し確認すると本種であった。県条例で採集は禁止されているので、撮影後、速やかに放した。かなり擦れた♀個体であったが、有精卵を産んで次の世代へと繋がれていこうと願う。

なお同年、豆駒崎においても下記の記録が出ているので紹介しておきたい（相原、2019）。

1♂，長崎県対馬市厳原町豆駒崎，14. VII. 2019

報文には「…首尾よくネットに入ったチョウを見て仰天しました。もう見ることができないと思っていた台湾モンシロチョウだったのです。やや擦れた♂」

2019年対馬の台湾モンシロチョウの記録

さかい
境 よしあき
良朗

対馬の台湾モンシロチョウ *Pieris canidia* (Sparrman, 1768) は近年激減し、野外絶滅が心配されている。長崎県は「平成28年度長崎県未来につながる環境を守り育てる条例に基づく希少野生動植物種及び希少野生動植物種保存地域指定」において本種を指定し、採集禁止の規制を行った。また、環境省は平成30年5月に公表した「環境省レッドリスト2018」で、一気に絶滅危惧IA類(CR)に指定した。

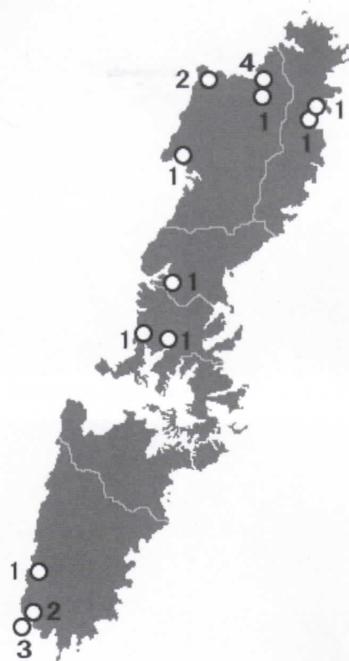


図1. 2004～2019年における台湾モンシロチョウの記録地と確認頭数

でした。…海岸線まで下って行って探し回りましたが追加することはできませんでした…」と記されている。野外絶滅が危惧されていたなかでのこれらの記録は朗報ではあるが、生息維持が厳しい状況には変わりがない。食餌植物の野生のアブラナ科植物も、シカの食害によって大きなダメージを受けている。例えば、かつて多産地であった豆駿崎のハナナズナ *Berteroella maximowiczii* (環境省絶滅危惧IA類) (写真2) は、数年前にはわずか30株が確認されただけだったが徐々に減少していった。緊急の保護対策がとられたにもかかわらず、2018年には完全に消滅したという報告を受けている。ハナナズナは広島県では既に絶滅しているので、対馬から消えてしまうと日本では野外絶滅ということになる。ハナナズナは台湾モンシロチョウが夏場を乗り切るために重要な食餌植物と考えられていることから(江島・北条, 1979), 今回の豆駿崎での記録は、ある意味ハナナズナが生き残っている可能性を推測させる貴重な記録ということになる。対馬の台湾モンシロチョウについては今後も拙HPにおいて情報収集を行っていくが(web検索「対馬の昆虫情報局」), 更なる記録がもたらされることを期待したい。

最後になるが、豆駿崎の記録についてご教示いただ

表1. タイ완モンシロチョウの確認頭数 (2004～2019年)

確認年	性別			計
	♂	♀	不明	
2004	2	0	0	2
2005	3	3	1	7
2006	0	0	0	0
2007	1	0	0	1
2008	1	0	0	1
2009	2	0	0	2
2010	1	0	0	1
2011	1	1	0	2
2012	0	1	0	1
2013	0	0	0	0
2014	0	0	0	0
2015	0	0	0	0
2016	0	0	0	0
2017	0	0	0	0
2018	0	0	0	0
2019	1	1	0	2
計	11	5	1	17

くとともに、掲載報文の資料を送付いただいた松尾照男氏にお礼申し上げる。

○引用文献

- 相原 聰. 2019. 梅雨明け直前の対馬採集記. 月刊ゆずりはクラブ (246): 2.
- 江島正郎・北条篤史, 1979. 対馬における台湾モンシロチョウの食性. 昆虫と自然 14(3): 40-45.
- 境 良朗, 2019. 野外絶滅か! 対馬の台湾モンシロチョウ. 佐賀の昆虫 (54): 209-212.